

【様式】第2号の1～4—①

大学・短期大学・高等専門学校

(注) 様式第2号の1—①

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1—②を用いること。

(注) 様式第2号の2—①

※国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2—②を用いること。

(注) 様式第2号の4—①

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4—②を用いること。

(申請書を作成する際には、1頁目を削除すること)

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東京女子体育大学
設置者名	学校法人藤村学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
体育学部	体育学科	夜・通信		4	10	14	13	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.twcpe.ac.jp/college/pdf/16_class.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京女子体育大学
設置者名	学校法人藤村学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

15 member.pdf (twcpe.ac.jp)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(公財)国連大学協力会 専務理事・事務局長	令和5年5月29日 ～ 令和9年5月28日	法人の運営
非常勤	(公財)日本ソフトボール協会副会長	令和5年5月29日 ～ 令和9年5月28日	法人の運営
非常勤	清水法律事務所弁護士	令和5年5月29日 ～ 令和9年5月28日	法人の運営
非常勤	(公財)日本スポーツ協会 常務理事/国スポ委員長	令和5年5月29日 ～ 令和9年5月28日	法人の運営
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京女子体育大学
設置者名	学校法人藤村学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)は、教務委員会の下にあるシラバス部会にて作成した「シラバス作成ガイドライン2024」を基にWebシステム「UNIVERSAL PASSPORT」により授業開始前年度の1月より全授業科目担当者に作成を依頼している。 シラバスは、授業の概要、授業方法・形態、主として関連するDP(ディプロマ・ポリシー)、授業の到達目標(DPで目指す資質・能力)、授業計画、成績評価の方法・基準、教科書・参考書、授業外学習(予習・復習)、実務経験における授業内容との関連性、関連する資格、備考欄で構成されている。シラバス部会および資格関連でキャリア支援委員会、教職関連で教職委員会による第三者の点検を経た上で、当該年度履修登録の開始前にUNIVERSAL PASSPORT上で公表している。 また、学期の開始日から1週間を「授業ガイダンス期間」とし、授業科目ごとの授業内容、教授内容を具体的に解説した「授業計画」を学生に配布し、授業科目担当者はガイダンスを行っている。 シラバスはホームページより検索し、UNIVERSAL PASSPORTを介して閲覧することができる。	
授業計画書の公表方法	https://unipa.twcpe.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修意欲の把握や学修成果に対する評価については、各科目で15回の授業における提出物や小テストなど、平素の学習状況及び実技試験を含む期末試験を実施するなどして総合的に判断している。 出席については、科目毎に出欠席状況を把握するとともに、欠席者には、健康上の理由などの私的な事情による「欠課届」と忌引きや大会出場などの特別な事情による「特別欠課届」を提出させ、出欠席の管理を厳格に行っている。欠席者に対して課題等を提示し、学修機会の確保について考慮している。また、特別欠課で期末試験等を受験できなかった者には、追試験を受験できるよう配慮している。 成績は評価基準により「秀・優・良・可・認定・不可・対象外」で評価し、「可」以上及び認定を合格としている。その結果不合格となった科目は、次年度以降に再履修をすることができる。但し、1年間の履修登録上限単位数は原則46単位までとしており、学期の上限も23単位までとしているため、計画的な履修が必要である。	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>GPA 制度は学生の学修意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資することを目的として、当該学期における学修状況及び成果を指標とする学期 GPA と在学中における全期間の学修状況及び成果を指標とする累積 GPA の2種類を用いている。GPA の対象科目は成績評価基準によって認定される全ての科目かつ卒業要件に算入される全ての科目を対象とし、成績評価(秀・優・良・可・不可・対象外)に対し段階ごとに(4・3・2・1・0)ポイントを付与し算出している。算出方法については学生に配付している「履修ナビ」(授業支援ガイド)やホームページに掲載している。</p> <p>また、成績評価の不振な学生や長期欠席学生の把握とともに迅速な指導を実施するための基準として、また、成績優秀者の表彰基準や奨学生の選考基準の目安にも利用している。現在、年度初めに卒業要件修得単位数の少ない学生、5月中旬までに授業の複数回欠席者、後期開始後に修得単位の少ない学生及び GPA の低い学生に対し修学指導を行っている。今後は GPA の分布状況等を公表し、支援対象者の学修指導を実施する。</p> <p><GPA の算出方法></p> <p>①学期 GPA の計算式</p> $\frac{\text{当該学期の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{当該学期の総履修登録単位数 (「不可」「対象外」の単位数を含む)}}$ <p>②累積 GPA の計算式</p> $\frac{\text{全期間の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{全期間の総履修登録単位数 (「不可」「対象外」の単位数を含む)}}$	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.twcpe.ac.jp/students/images/guidance_2024.pdf
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を策定し、ホームページ、大学案内及び「履修ナビ」(授業支援ガイド)等に掲載し、広く公表して学生の学修成果の目標としている。</p> <p>4年間の学修を通して最低修得単位 124 単位を修得し、本学の建学の精神に基づき、①人間形成・知識・技能・理解力・指導力、②実践的に必要な思考力・判断力・表現力、③社会との関わり・関心・意欲を身に付け、指導者としての資質、多様化する現代社会における教育問題及び社会問題にも誠実に立ち向かう対応能力のある者に学位を授与し卒業を認定している。</p> <p>卒業要件を満たした者に対し、卒業認定会議(2月下旬もしくは3月初旬)で審議し、卒業認定された者は掲示で告知している。卒業認定会議で認定されなかった者は、追加認定を3月の教授会で審議している。卒業認定者には、卒業証書・学位記を授与している。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.twcpe.ac.jp/academics/pe_policy.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東京女子体育大学
設置者名	学校法人藤村学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	HPによる公表（学園案内⇒情報公開より） 情報公開 学園案内 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学 (twcpe.ac.jp)
収支計算書又は損益計算書	HPによる公表（学園案内⇒情報公開より） 情報公開 学園案内 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学 (twcpe.ac.jp)
財産目録	HPによる公表（学園案内⇒情報公開より） 情報公開 学園案内 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学 (twcpe.ac.jp)
事業報告書	HPによる公表（学園案内⇒情報公開より） 情報公開 学園案内 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学 (twcpe.ac.jp)
監事による監査報告（書）	HPによる公表（学園案内⇒情報公開より） 情報公開 学園案内 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学 (twcpe.ac.jp)

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：事業計画 対象年度：令和6年度）
公表方法： plan_2024.pdf (twcpe.ac.jp)
中長期計画（名称：中期計画 対象年度：令和2年度～令和6年度）
公表方法： 14_medium_plan.pdf (twcpe.ac.jp)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法： https://www.twcpe.ac.jp/college/self_inspect.html

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： https://www.twcpe.ac.jp/college/self_inspect.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 東京女子体育大学 体育学部 体育学科
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.twcpe.ac.jp/college/spirit.html)
<p>(概要)</p> <p>建学の精神 「心身ともに健全で、質素で誠実、礼儀正しい女子体育指導者の育成」 この建学の精神は、藤村トヨの女性観、教育観により確立したものです。</p> <p>教育理念 東京女子体育大学・東京女子体育短期大学は、建学の精神に基づき、体育・スポーツの知の獲得と深い洞察力を身に付け、運動文化伝承の担い手として、凛とした次世代のリーダーとなる人材を育成します。</p> <p>教育目的 本学は、体育・スポーツの専門的な知識・技能の教授、研究を通して、品格ある有能な女子体育指導者を養成するとともに、幅広い分野で社会の発展に貢献する人材を育成することを目的とする。</p> <p>藤村トヨの想いと考える 本学は、日本初の女子体育教師養成学校として創設され、創設時から音楽を使った体操遊戯を取り入れ、1 世紀以上にわたって社会に貢献してきました。 健康の秘訣として藤村トヨが提唱したこの教えは、事における精神的構えとして現在でも本学を象徴する教訓として生きています。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.twcpe.ac.jp/adacemics/pe_policy.html)
<p>(概要)</p> <p>教育目標をかかげ、4 年間の学修を通して教育課程を修了して所定の単位数を修得し、以下に定める能力を身に付けた学生に対して、「学士(体育学)」の学位を授与します。</p> <p>〔人間形成・知識・技能・理解力・指導力〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな社会性と人間性を支える広い教養を身に付けている。 2. 体育学の内容を理解し実践できる能力を有している。 3. 専門分野にとどまらず、様々な領域に柔軟に対応し、指導できる力を有している。 <p>〔実践的に必要な思考力・判断力・表現力〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 自ら設定した課題について、専門領域から分析・考察することができる。 5. 多様な人々の意見を聴き、理解した上で自分の考えを表現し、的確に伝えることができる。 <p>〔社会との関わり・関心・意欲〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 社会の変化に伴う諸問題を理解し、探究心を持って積極的に解決することができる。 7. 体育・スポーツの知を生かし、社会の発展に貢献できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.twcpe.ac.jp/academics/pe_policy.html)
<p>(概要)</p> <p>【カリキュラムの編成と教育内容】</p> <p>4 年間の学修を通して教育目標を達成するための、教養科目、基礎科目および体育の専門科目で編成します。専門科目は、4 つの専攻コース※(教職体育学、スポーツ健康学、コーチング学、スポーツマネジメント学) 別の科目と共通の科目で編成します。</p> <p>※令和 5 年度入学生適用 4 つの専攻コース「教職体育学専攻コース」設置</p>

<p>それぞれの教育内容は次のとおりです。</p> <p>○教養科目 本学の基本理念および歴史と伝統、国語、外国語等豊かな教養の基盤を養います。</p> <p>○基礎科目 体育・スポーツの基礎理論と基礎実技を学び、各専門領域の導入を図ります。</p> <p>○専門科目 身体教育および健康教育のあり方やスポーツの文化的な価値や意義に関し、理論と実技の両面から専門的に学びます。</p> <p>○ゼミナール・卒業研究 3年次からは、少人数のゼミナールにより、担当教員の指導のもと、研究方法を学び、意欲的に研究活動に取り組み研究発表を行います。</p> <p>[教育方法] 講義、演習、実技、実習等を複合的に行います。また、学生同士が教え合い相互に学び合う協同学習を授業形態に取り入れています。</p> <p>[学修成果の評価方法] 科目ごとに、シラバス（授業計画書）に明示した評価の方法により、試験（筆記、実技等）、レポート等で行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.twcpe.ac.jp/academics/pe_policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学は、多様な入学試験により、入学者に求める力を多面的・多角的に評価し、総合的に判定します。</p> <p>受け入れる学生には、以下のいずれかの能力を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。 -高等学校での履修内容を理解し高等学校卒業相当の知識を有している。 -体育・スポーツに関して、修学に必要な実技能力を有している。 2. 物事を多面的かつ多角的に観察し、論理的に考察することができる。 3. 自分の考えをまとめた的確に表現することができる。 4. 体育・スポーツに関わる諸問題に深い関心を持ち、社会に積極的に貢献する意欲がある。 5. 積極的に多様な人々とのコミュニケーションを図り相互理解に努めようとする態度を有している。 <p>上記の能力は以下の試験で測ります。また求める人物像に応じて、各種試験ごとに出願書類、面接、学科試験等を用いて評価します。</p> <p>■総合型選抜 建学の精神を理解し、本学の教育内容に高い関心とコミュニケーション能力を有し、入学後も意欲的に体育・スポーツ分野に研鑽を重ね、将来社会で活躍が期待できる者を求めます。</p> <p>■学校推薦型選抜</p> <p>公募 本学の教育内容に高い関心を持ち、高校時代の成績が優秀で、体育・スポーツ分野に明確な目的意識をもっている者を求めます。</p> <p>指定校 本学が指定する高等学校における高等学校長が推薦する生徒で、本学の教育内容に高い関心を持ち、体育・スポーツ分野に明確な目的意識を持っている者を求めます。</p> <p>スポーツ 本学の教育内容に高い関心を持ち、優れた競技力を有し進学後もその技能に磨きをかけ体育・スポーツの分野で活躍できる資質を有している者を求めます。</p> <p>■一般選抜 本学の教育内容に高い関心を持ち、学業に優れ、体育・スポーツに関する能力を有する者を求めます。</p>

■共通テスト利用選抜

本学の教育内容に高い関心を持ち、学業に優れ、体育・スポーツに関する能力を有する者を求めます。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：[plan_2024.pdf \(twcpe.ac.jp\)](#)

情報公開上の事業計画資料（学園組織図及び法人委員会、教学委員会組織関連図）

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
体育学部	1人	—					1人
	—	18人	10人	9人	0人	0人	37人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		46人					46人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： 教員情報 東京女子体育大学 (gyoseki-twcp.ej.u-t.ac.jp)					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD委員会を中心にFD研修の実施、学生による授業評価の活用等により、教員の教育意義や指導技術を高め、授業の改善・充実を図っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
体育	340人	232人	68.2%	1440人	1127人	78.3%	40人	12人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	340人	232人	68.2%	1440人	1127人	78.3%	40人	12人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	313人 (100%)	8人 (2.6%)	276人 (88.2%)	29人 (9.2%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	313人 (100%)	8人 (2.6%)	276人 (88.2%)	29人 (9.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 学校教員、警察官、防衛省、体育スポーツ施設(体育指導)、大学院進学等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画(シラバス)は、授業の概要、授業方法・形態、主として関連するDP(ディプロマ・ポリシー)、授業の到達目標(DPで目指す資質・能力)、授業計画、成績評価の方法・基準、教科書・参考書、授業外学習(予習・復習)、実務経験における授業内容との関連性等を記載し、全授業科目において作成している。前期・後期 Semester 制で、学期の開始日から1週間を「授業ガイダンス期間」とし、授業科目ごとの授業内容、教授内容を具体的に解説した「授業計画」を作成し、学生に周知している。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学修の成果は平素の学修状況等を総合的に判断し、成績評価基準により「秀・優・良・可・認定・不可・対象外」で評価している。最低修得単位124単位修得し、本学の建学の精神に基づき、①人間形成・知識・技能・理解力・指導力、②実践的に必要な思考力・判断力・表現力、③社会との関わり・関心・意欲を身に付け、指導者としての資質、多様化する現代社会における教育問題及び社会問題にも誠実に立ち向かう対応能力のある者に卒業を認定し、「学士(体育学)」を授与している。</p>																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業又は修了に必要な となる単位数</th> <th>GPA制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">体育学部</td> <td>体育学科</td> <td>124 単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td>単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>単位</td> <td>有・無</td> <td>単位</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	体育学部	体育学科	124 単位	有・無	単位		単位	有・無	単位			単位	有・無	単位			単位	有・無	単位
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)																				
体育学部	体育学科	124 単位	有・無	単位																				
		単位	有・無	単位																				
		単位	有・無	単位																				
		単位	有・無	単位																				
GPAの活用状況（任意記載事項）	公表方法：																							
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)	公表方法：																							

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.twcpe.ac.jp/college/facilities.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
体育学部	体育学科	760,000 円	300,000 円	360,000 円	その他項目 ・施設設備費 300 千円 ・実験実習料 60 千円
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学独自の奨学金制度により、学業及びスポーツ優秀者に対する修学支援金や、修学を継続するために経済的援助を必要とする者には、学費を援助する奨学金を給付している。長期欠席者や成績不振の学生には、ゼミ、グループ担任等が個人面談等を行い指導するとともに、オフィスアワーや学力保障期間を利用して授業担当者からの修学支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、1 学年後期の必修授業科目として「キャリアデザイン」の授業を、また 2・3 学年を対象に選択授業科目「インターンシップ」を設定し、進路選択における基礎的知識を身につけられるカリキュラムを組んでいる。 キャリアセンターでは、ガイダンス等を通じ、必要な情報を提供するとともに、キャリアコンサルタントによるカウンセリングの実施とあわせて、個別面談の場を設けている。 また、就職試験に向けた「就職対策講座」「SPI 対策講座」を始め、公務員希望者には「公務員対策講座」を実施し、希望する進路に進めるよう支援している。 なお、教員希望の学生には教員採用試験の学習を中心に支援する「教職ラーニングステーション」を設置し、「教師力養成講座」「教員採用試験対策講座」等を実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、全学生を対象に「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」への加入をしており、授業中やクラブ活動中に発生した傷害や他人にケガをさせたり、他人の財物を破損したりすることにより被る損害賠償に備えている。 学業、進路や人間関係等の悩みや相談については、グループ担任、ゼミ担任、クラブ指導者によるきめ細かい指導や相談に応じる体制を整えるとともに、学生委員や健康管理センター等、内容に応じた相談窓口を設けている。 また、学内 2 か所に学生相談箱を設置し、プライバシーを厳守したうえで悩みや相談の把握に努めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： 教員情報 東京女子体育大学 (gyoseki-twcpe.jp)
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103787
学校名 (〇〇大学 等)	東京女子体育大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人藤村学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		155人	156人	160人
内訳	第Ⅰ区分	83人	80人	
	第Ⅱ区分	48人	44人	
	第Ⅲ区分	24人	32人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				160人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	-	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	-	人	人
計	11人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	-	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	24人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	24人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。